



大泉英次教授



鈴木裕範教授

## 献 辞

本特集号は、昨年度末をもって本学経済学部を定年により退任された大泉英次先生と鈴木裕範先生に、深い感謝と惜別の情を込めて編まれたものである。

大泉先生は、昭和 52 (1977) 年に本学経済学部講師として赴任された。助教授を経て平成 4 (1992) 年に教授に昇任された。経済政策、都市政策、なかでも土地・住宅経済および政策についての研究・教育に従事された。旧西高松キャンパスにて 10 年、栄谷キャンパスにて 27 年、37 年の長きにわたり本学部および大学全体のために多大なる貢献をされた。

教育面においては、学部の講義として「経済政策」「工業政策」「都市政策」等を、大学院の講義として「都市政策特殊問題」等を担当された。先生の深い学識と温かい人柄に引かれた学生は数知れず、彼、彼女らは実社会で大いなる活躍を見せる人材となっている。

研究面においては、「土地の所有と利用の乖離」論の批判に関わる『土地と金融の経済学－現代土地問題の展開と金融機構』(1991 年)、くわえて、住宅市場の不安定と格差を国際比較の観点から論じた『不安定と格差の住宅市場論－住宅市場のガバナンスのために』(2013 年)と題された単著書 2 冊、そして翻訳書 1 冊、共編著 4 冊を含め、土地・住宅政策に関わる数多くの研究を世に問われた。定説に対して論争を挑む先生の研究は、非常に多くの注目を集めるものであった(週末なども含めて先生の研究室の灯りは、ずいぶん遅くまで点っていることが常であった)。

学内行政面においては、教務委員長、入試委員長、経済研究所理事長、経済学会常任評議員長、経済学科長、副学部長等を歴任された。学部運営の要の役割を長きにわたって果たされ、先生なくしては学部の教育・研究の今日の発展は考えられないほどの大きな貢献をなされた。またその活躍は、学部内にとどまるものではなかった。きのくに活性化支援センター長、紀南サテライト部長、南紀熊野サテライト長も歴任されるなど、学部の枠を超え大学と地域との架け橋、地域への道導となられた。

地域への架け橋となられた、また、和歌山県・和歌山市をはじめとして南大阪地域も含めて各種の審議会・委員会等でも指導的な役割を果たされた。南紀熊野サテライト、岸和田サテライト等にて地域の社会人の方々を対象とした授業も多数、担当された。さらに wbs 和歌山放送ラジオの経済情報番組「経済ジャーナル」のコメンテーターも長年にわたりつとめられた。あえて書き記すことではないであろうが、地域においてもじつに多方面で活躍された。地域貢献面においても、大泉先生の貢献の大きさには計り知れないものがある。

鈴木先生は大学卒業後、長きにわたり株式会社和歌山放送 (WBS) にて放送ジャーナリストとして活躍された。地域を題材とする数多くのドキュメンタリー制作に取り組み、「沈黙の春－子供が消え、そして学校が消えた」は昭和 62 (1987) 年に文化庁・芸術作品賞を受けられた。その後 52 歳にて大学の世界に転身、平成 13 (2001) 年に本学経済学部助教授とし

て赴任された。その後、平成 24（2012）年には教授に昇任された。WBS 時代からの地域に丹念に足を運ぶスタイルは本学赴任後も変わることなかった。「あらゆる答えが現場にある」と、地域において学ぶ場を多くの学生に提供された。またそれは、地域が持つ特徴をあぶり出すご自身への研究にもつながった。たとえば、飛び地の村としても有名な北山村にはとくに足繁く通われ、院生や地域の方々とともに『奥熊野・北山村の民俗誌 100 の話で語る村の今昔』（2013 年）をまとめられている。

教育面においては、学部の講義として「ジャーナリズム論」「地域資源調査研究」「紀州・和菓子文化論」等を、大学院の講義として「地域学特殊問題」等を担当された。観光学研究科においても「紀州学特論」を担当された。栄谷での講義だけではなく、その地を離れ県内各所に学生とともに足を運ぶフィールドワークのスタイルでの授業にも取り組まれ、それを通じて多くの学生の目を地域に向かわせ、貴重な学びを得る機会を提供された。

研究面においても、地域との密接なつながりを背景として、紀州、和歌山地域が育んできた、また現在も育まれている伝統、文化などを丁寧掘り起こす仕事を積み重ねられてきた。『紀州の和菓子—その文化とまちづくり』（2012 年）をはじめとして、多くの著書・論文を世に送り出されてきた。紀州、和歌山地域の過去、現在を知り、そして未来のあり方を考えていくには必ず手にしなければならぬ。鈴木先生は、そうした仕事を成し遂げられてきた。

学内行政面においても、地域とのつながりを最重視する活動においてとくに、非常に大きな貢献をなされた。きのくに活性化支援センターやサテライト部、紀州経済史文化史研究所、地域連携オフィス（地域・国際連携オフィス）などの運営に深く関わられ、キーパーソンとして活躍された。これは教育面とも関わる点であるが、サテライトにても数多くの講義を担当された。

地域貢献面においての先生の活躍も、あえて記すまでもなかろう。地域のあらゆる組織、センター、委員会において要職を務められている。地域全域において、大きなご貢献をされた。

両先生の退任記念講演会には、現役学生のみならず卒業生、そして教職員は言うまでもなく、両先生と関わりを持たれた地域の方々も多数、参加されていた。いずれの参加者も、両先生から発せられる一言一句まで決して聞き漏らすまいと真剣な面持ちであった。また講演終了後には、両先生と言葉を交わし記念写真を撮ろうとする途切れることのない列ができていた。

両先生が真摯に学問そして地域の方々に向き合われてきたこと、温かいお人柄を持って、を再度、感じさせていただくシーンであった。

大泉先生、鈴木先生の本学並びに経済学部に対するこれまでのご貢献に対し心から敬意と感謝の意を表すとともに、今後の一層のご活躍とご健勝を心よりお祈り申し上げます。

2014 年 4 月

和歌山大学経済学会長  
吉 村 典 久